

第 80 回世銀・IMF 合同開発委員会のコミュニケ（ポイント）

2009 年 10 月 5 日 於イスタンブール

1. 開発委員会はイスタンブールにて 10 月 5 日に開催。我々は、災害で被災したアジア・大洋州の人々に対し見舞いの意を表明。世界銀行は被災者への支援を行う用意がある。
2. 世界経済は回復の兆しを見せているがリスクは残存。多くの途上国において、貧困と脆弱層への影響は強まっている。危機の結果、2010 年末までに、9 千万人以上もの人々が新たに極度の貧困に追いやられるリスクに晒されている。ミレニアム開発目標に向けた懸命な努力で得られた進捗も失われる危険に晒されている。貧困層を保護するため、我々は、加盟国に対し支援とその有効性を強化するコミットメントを全うすることを懇請。途上国は世界経済の回復に重要な役割を果たしており、彼らの発展は将来の成長にとり不可欠。我々は、途上国が政策枠組みを改善するための継続的な進捗を歓迎し、資金的な制約への対処と途上国への投資が、持続可能な成長のために極めて重要であることを認識。我々は、国際的な貿易と投資の回復が成長を牽引することを認め、加盟国に対し保護主義的な措置を避けることを懇請。
3. 我々は本年国際復興開発銀行（IBRD）の承諾額がほぼ 3 倍となる 330 億ドルとなったこと、国際開発協会（IDA）の承諾額が歴史的な高水準である 140 億ドルに達したことに留意し、世銀グループ（WBG）による精力的な危機対応を歓迎。国際金融公社（IFC）は強い革新性と効果的な資金の動員を結びつけ、自己資金で 105 億ドルの投資を行い、世界貿易、インフラ、マイクロファイナンス、銀行資本増強の新たなイニシアティブを通じ追加的に 40 億ドルの資金を動員。我々は、世銀グループの将来の業務に、危機からの適切な教訓を取り入れることの重要性を強調。我々は、世銀グループが、インフラ開発への投資、民間セクター主導の成長と雇用の支援、気候変動、食糧安全保障、脆弱国、奪われた財産の回復イニシアティブ等のガバナンス改革等、世銀グループの比較優位に即して、長期的な開発課題に取り組む努力を支持。我々は、世銀グループの危機後の戦略についての継続中の作業を歓迎し、次回会合においてこれをレビューすることに期待。我々は、世銀グループが地域開発金融機関と協力し、それぞれの役割と協働の方法を評価することを要請。
4. 我々は、IMF による適時の効果的な努力を歓迎。加盟国は、IMF の資金を 3 倍とする約束を果たしつつある。我々は新たな SDR の配分、IMF の中期的な譲許的貸出しキャパシティを 2 倍以上の 170 億ドルとすること、低所得国向けファシリティの改革、IMF の構造コンディショナリティの簡素化を歓迎。我々は、債務持続可能性枠組み及び金融セクター評価プログラムの柔軟性を高める IMF・世銀の共同の努力を支持。
5. 我々は、世銀グループが既存の資金を完全に活用することを懇請し、世銀グ

グループが3年間で1,000億ドル以上のIBRD融資を供与することに向け順調である点を歓迎。我々は、世銀グループの財務面の余力および持続可能性を高める方策の点検における進展を歓迎。我々は、世銀グループが将来の開発課題に応ずるために十分な資金を有することを確保することにコミットし、決定のため2010年春までに、世銀グループの一般増資の必要性も含め、最近のレビュー作業を完了するよう要請。このレビューは、全ての考えうる偶発的なアプローチの検討を試み、ボイス（投票権）改革のための特別増資による資本注入も勘案すべき。IFCの一般増資の潜在的な必要性を検討するに当たり、レビューではハイブリッド・キャピタルの使用も検討すべき。

6. 債務持続可能性を維持しつつ、低所得国の保健、教育、社会的セーフティネット、インフラ、農業等の中核的な支出を守る必要があり、この状況において、我々はIDAが所要の譲許的資金を確保することにコミット。我々は、低所得国を危機から守るためIDAに新しい危機対応メカニズムを設けることの有用性を検討することにコミット。IDA15中間レビューの一部として検討される。我々は、世銀が他の関係する多国間機関及びイニシアティブと協調し、低所得国のための食糧安全保障イニシアティブを支援するマルチ信託基金を組成することを要請。また世銀グループに対し、IBRDのエンクレーブ融資を含め低所得国により多くの資金を利用可能とする更なる方法を検討するよう要請。
7. 我々は、世界銀行の適切性、有効性、正当性を確保するための投票権改革を通じて、ガバナンスと業務の有効性に関する改革を追求することにコミット。我々は、世界銀行において、徐々に衡平な投票権に移行することの重要性を強調。これは、各国の経済的地位及び世銀の開発使命を主として反映し、過小代表国の利益となるよう、この重要な調整の第1段階における1.46%の増加に加え、次の株式保有シェアの見直しにおいて途上国、体制移行国の投票権に少なくとも3%の意義ある増加をもたらすダイナミックな計算式を利用することを通じて行われる。過大代表国はこれに貢献することを認識しつつ、極めて小さな貧困国の投票権を保護することは重要となろう。我々は、2010年春の会合までに合意に達することに改めてコミット。
8. 世銀グループのコーポレート・ガバナンス、説明責任、及び業務有効性を引き続き向上させることは、21世紀の開発上の困難に立ち向かう上で不可欠。我々はこれまでの進捗を歓迎し、次回会合において進捗とこれら改革の推進のための提案が次回会合に報告されることを要請。
9. 開発委員会は、トルコ共和国政府に対し、年次総会ホストへの謝意を表明し、アグスティン・カルステンス・メキシコ財務大臣の3年間の開発委員会議長としての価値あるリーダーシップと指導に感謝し、後任議長となるアフマド・ビン・ムハンマド・アル・ハリファ・バーレーン財務大臣を歓迎。
10. 次回会合はワシントンDCにて2010年4月25日開催を予定。